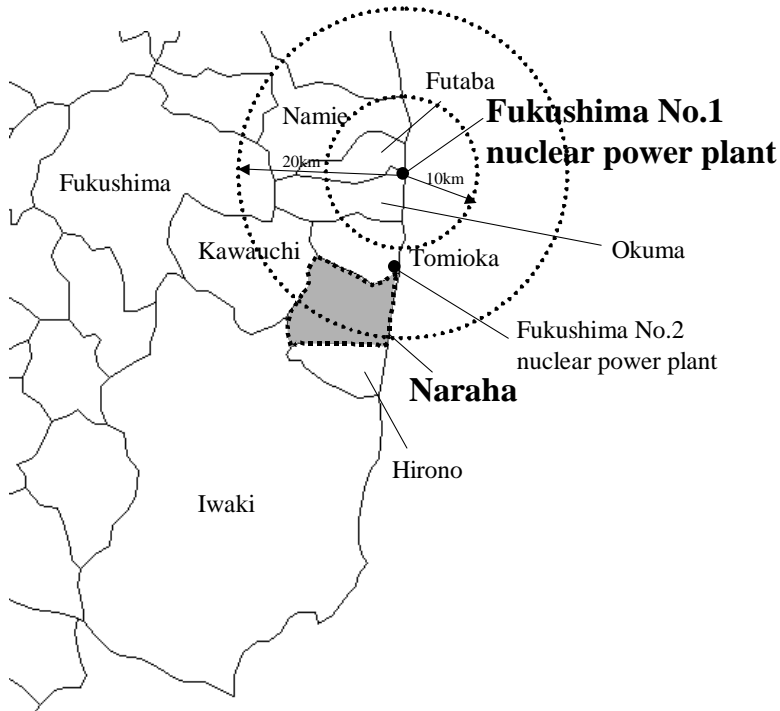


第2章 大震災がもたらすコミュニティの変容—楢葉町

2.1 楢葉町の概要と調査設計・回収結果

福島県双葉郡楢葉町は日本の中心の東京から約 200km 北東に位置し、人口約七千人の町である。震災前は 103.45km²の面積に、山田岡や上井出などといった行政地区が 18 存在していた。2011 年 3 月 11 日に発生した M9.0 の東北地方太平洋沖地震により発生した津波が楢葉町にも最大 12m もの高さに達し¹⁾、福島第一原発の建屋爆発にもつながった。原発事故により、楢葉町の住民は国の指示により 12 日には町のほぼ全域が避難指示を受け、4 月 21 日には 20km 圏内、町の総面積の約 8 割が警戒区域として退去命令・立入禁止の措置がとられた²⁾。その後 2012 年 8 月に警戒区域が解除されたが、全町民は現在に至るまで全国各地で避難生活を続けている。

図 2-1-1 双葉郡楢葉町の位置 (筆者作成)



楢葉町の住民は富岡町民と同様に、近隣のいわき市、同県内の会津地方（会津美里町など）をはじめ、日本全国へ避難していった。こうした混乱にあるなかで、安否確認や被災地の状況を把握するのは困難であったが、いわき市立中央台南小学校内に仮役場を設置した町は公

式 HP (災害版) を立ち上げるとともに、同町の避難者が多かった会津美里町に災害対策本部を設けた。そして、震災から3ヶ月後の6月に『広報 ならば号外』を発行し、町内や避難者の動向を HP との連携にて全国各地の避難者へ発信していった。因みに町の発表によれば2012年5月末時点での避難者分布はいわき市5,313人、会津美里町423人、会津若松市152人、郡山市115人、福島市59人などであり、人口全体の8割以上がいわき市へ避難している。避難者への(応急仮設や自治体などによる借り上げ)住宅の提供は一時帰宅が開始された2011年6月からはじまっている。楡葉町提供データによれば、2013年1月24日時点で、いわき市にある応急仮設住宅の「上荒川」には198戸572人、同じく「高久第十」では192戸527人などが生活し、それ以外は借り上げ住宅や震災後に新たに購入するなどして、今に至るまで町民が散住しているのは富岡町と同じ状況である。

2.2 調査結果の概要

調査対象は楡葉町民全3,700世帯の世帯主または準ずる者で、調査期間が2012年6月～8月、郵送による質問紙調査法で実施し、有効回収数(回収率)は477s(12.9%)。内訳については、仮設住宅・雇用促進住宅(30.2)³⁾、いわき市借り上げ(37.1)、福島県内その他借り上げ(13.0)、県外借り上げ(19.3)、不明(0.4)。性別では男性(64.6)、女性(33.8)、不明(1.7)(表2-2-1)。年代別で20代(1.9)、30代(8.0)、40代(10.7)、50代(25.6)、60代(24.5)、70代以上(26.2)、不明(3.1)(表2-2-2)であった。

表 2-2-1 調査対象者の性別

| | 調査数 | 男性 | 女性 | 不明 |
|-------------|-----|--------|--------|-----|
| 合計 | 477 | 64.6 | 33.8 | 1.7 |
| 仮設住宅・雇用促進住宅 | 144 | 68.1 | 30.6 | 1.4 |
| 県内いわき市 | 177 | 63.3 | 35.0 | 1.7 |
| 県内その他 | 62 | ∴ 72.6 | 27.4 | - |
| 県外 | 92 | ∴ 56.5 | ∴ 40.2 | 3.3 |

表 2-2-2 調査対象者の年代

| | 調査数 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 |
|-------------|-----|-----|--------|------|--------|
| 合計 | 477 | 1.9 | 8.0 | 10.7 | 25.6 |
| 仮設住宅・雇用促進住宅 | 144 | 2.1 | ▽ 3.5 | 8.3 | 23.6 |
| 県内いわき市 | 177 | 2.8 | ↑ 11.9 | 11.9 | 26.6 |
| 県内その他 | 62 | - | 6.5 | 8.1 | ∴ 33.9 |
| 県外 | 92 | 1.1 | 8.7 | 14.1 | 21.7 |

| | 調査数 | 60代 | 70代以上 | 不明 |
|-------------|-----|--------|--------|-----|
| 合計 | 477 | 24.5 | 26.2 | 3.1 |
| 仮設住宅・雇用促進住宅 | 144 | ↑ 30.6 | 28.5 | 3.5 |
| 県内いわき市 | 177 | 22.6 | ∴ 21.5 | 2.8 |
| 県内その他 | 62 | 27.4 | 24.2 | - |
| 県外 | 92 | ∴ 17.4 | 31.5 | 5.4 |

また現在の居住地をみると、宮里仮設（4.0）、高久第5仮設（0.6）、高久第6仮設（0.2）、高久第8仮設（4.0）、高久第9仮設（5.0）、高久第10仮設（5.5）、飯野仮設（0.6）、上荒川仮設（5.2）、四倉細谷仮設（1.0）、内郷白水仮設（0.6）、作町1丁目仮設（2.1）、常磐銭田仮設（0.6）、下船尾宿舎（一）、常磐宿舎（0.6）、いわき市（37.1）、福島県内（13.0）、福島県外（18.9）、その他（0.4）、不明（0.4）。また、賃借形態は国・自治体による借り上げ（64.9）、個人の借り上げ（5.8）、親族関係の住宅（10.4）、企業による借り上げ（7.1）、その他（8.4）、不明（3.2）であり、住居形態は集合住宅（70.8）、一戸建て（22.7）、その他（1.9）、不明（4.5）となっている。

(1) 震災前

①人づきあい

震災前の人づきあいをみてみよう（表2-2-3）。「親兄弟等の親戚」（91.8）や「友人・知人」（91.2）が9割を超え、「隣近所の人たち」（83.0）も8割を超えており、富岡町に比べると、やや近所づきあいが多い。

表2-2-3 震災前の人づきあい

| 人づきあい N=477 単位% | | | |
|-----------------|------|-----------------|------|
| 親兄弟、従兄弟などの親戚 | 91.8 | 町内会・自治会の人たち | 45.1 |
| 友人・知人 | 91.2 | クラブ・サークルや習い事の仲間 | 23.1 |
| 隣近所の人たち | 83.0 | ネットを通じた知り合い | 3.4 |
| 仕事関係での付き合い | 59.5 | NPO等の団体の人たち | 2.9 |

②情報源

震災前に使っていた情報媒体であるが（表2-2-4）、「テレビ・ラジオ」（93.9）や「新聞・雑誌」（89.3）というマスメディアの他に、「友人・知人」（78.6）といったロコミが約8割と高いのは富岡町と同傾向にある。

表2-2-4 震災前の情報源

| 情報源 N=477 単位% | | | |
|---------------|------|--------------|------|
| テレビ・ラジオ | 93.9 | ネット上のニュースサイト | 23.3 |
| 新聞・雑誌 | 89.3 | 企業のホームページ | 8.0 |
| 友人・知人の話 | 78.6 | ネット上の掲示板 | 5.7 |
| 家族の話 | 64.4 | SNS | 1.7 |

③自治会加入率と生活上の問題点

はじめに震災前のコミュニティ活動について概観する。震災前の自治会への加入率は（91.0）、未加入（8.6）、不明（0.4）と富岡町に比べると加入率はやや高い。地域での生活上の問題点でみると（表2-2-5）、3割を超える項目が「住民の高齢化」（39.4）、「医療・福祉施設の不足」（37.1）であり、これら2つの問題は富岡よりも強く認識されている。一方で、

「買い物施設の不足」(20.8)、「住民の参加の少なさ」(18.4)、「ゴミ処理の問題」(15.1)などはいずれも2割程度～以下であった。

表 2-2-5 震災前居住地区における生活上の問題点

| 生活上の問題点(26項目上位10項目) N=477 単位% | | | |
|-------------------------------|------|-------------|------|
| 住民の高齢化 | 39.4 | 独居高齢者への対応 | 14.5 |
| 医療・福祉施設の不足 | 37.1 | 移動や交通の問題 | 12.8 |
| 買い物施設の不足 | 20.8 | 名前を知らない人の増加 | 12.8 |
| 住民の参加の少なさ | 18.4 | 他地区との交流が少ない | 12.4 |
| ゴミ処理の問題 | 15.1 | 世代間のズレ | 11.9 |

④コミュニティ活動

次に行政区内における諸活動・組織形成状況について確認する(表 2-2-6)。活動で多いのは「地域の清掃美化」(82.8)が8割を超えるだけで、「防火・防犯パトロール」(42.6)や「集会所等の施設管理」(40.3)は4割程度であり、それ以外は3割にも達していなかった。行事は「神社・祭礼」や「自治会の総会」(70.2)、次いで「盆踊り・夏祭り」(63.7)が多く実施された。組織化されているものをみると、「消防団」(67.3)、「老人クラブ」(63.3)、「子供会育成会」(51.4)が5割以上であるのは富岡町と同じであった。

表 2-2-6 震災前居住地区におけるコミュニティ活動

| 地域が実施する活動 N=477 単位% | | | |
|---------------------|------|------------|------|
| 地域の清掃美化 | 82.8 | 公園・広場等の管理 | 21.8 |
| 防犯・防火パトロール等 | 42.6 | 高齢者・障がい者福祉 | 19.9 |
| 集会所等の施設管理 | 40.3 | 青少年教育・育成 | 18.2 |
| 資源・廃品回収 | 26.0 | 学童保育等の支援 | 15.9 |
| 地域が実施する行事 N=477 単位% | | | |
| 神社祭礼 | 70.2 | 新年会・忘年会 | 38.6 |
| 町内会・自治会の総会 | 70.2 | 食事会・飲み会 | 37.1 |
| 盆踊り・夏祭り | 63.7 | 防災訓練 | 30.0 |
| 冠婚葬祭 | 43.2 | 研修会・講習会 | 12.2 |
| 運動会等の体育活動 | 38.6 | ラジオ体操 | 8.0 |
| 地域が形成する組織 N=477 単位% | | | |
| 消防団(分団) | 67.3 | 婦人会 | 42.8 |
| 老人クラブ | 63.3 | 民生・児童委員会 | 35.4 |
| 子供会育成会 | 51.4 | 社会福祉協議会 | 31.4 |
| 防犯協会 | 49.9 | 体育協会 | 31.2 |
| 氏子会・檀家組織 | 44.4 | 青年団 | 22.0 |

⑤災害への備え

災害への地域の事前対応を確認すると、「話し合った」(29.8)、「話し合っていない」(58.7)、「わからない」(7.3)、「不明」(4.2)と、話し合った人は全体の3割である。

話し合った人の相手を見ると「自分の家族・親戚」(83.8)が8割以上であり、「近所」(45.1)や「自治会」(33.8)は富岡町よりもやや多いものの半数には達せず、地域での対応というよりは身内で話す程度にとどまっていたようだ(表2-2-7)。

話の内容であるが、「避難の方法・場所」(59.9)や「非常持ち出し品」(56.3)が5割を超えただけで、あくまでも個人・家族単位での対応といえよう(表2-2-8)。

表 2-2-7 話をした相手

| 話をした相手 N=142 単位% | | | |
|------------------|------|------------|------|
| 自分の家族・親戚 | 83.8 | 警察や消防関係の人 | 11.3 |
| 近所に住んでいる人 | 45.1 | 学校や職場関係の人 | 10.6 |
| 町内会・自治会の人 | 33.8 | NPO等の団体との人 | 2.1 |
| 役場の人 | 26.8 | その他 | 2.8 |

表 2-2-8 話の内容

| 話をした内容 N=142 単位% | | | |
|------------------|------|----------|------|
| 避難の方法、場所 | 59.9 | 災害危険箇所 | 30.3 |
| 非常持ち出し品 | 56.3 | 安否確認等の連絡 | 22.5 |
| 心がまえ | 43.0 | 高齢者等の安全 | 22.5 |
| 食料・飲料水 | 42.3 | その他 | 2.1 |
| 家屋の安全度 | 40.8 | | |

(2) 避難時の人づきあい

避難時生活時の人づきあいであるが(表2-2-9)、最も多いのが「親兄弟等の親戚」(71.9)、続いて「友人・知人」(54.5)、「震災後に知り合った人たち」(46.8)であり、富岡町と同様に避難時は新たな関係が形成されるというよりは、それまでの関係を保ちつつしのいでいたといえよう。

表 2-2-9 避難生活時の人づきあい

| 避難時の人づきあい N=477 単位% | | | |
|---------------------|------|-------------|------|
| 親兄弟、従兄弟などの親戚 | 71.9 | 町内会・自治会の人たち | 15.1 |
| 友人・知人 | 54.5 | NPO等の団体の人たち | 8.0 |
| 震災後に知り合った人たち | 46.8 | サークルや習い事の仲間 | 3.8 |
| 隣近所の人たち | 37.5 | インターネット | 1.9 |
| 職場関係 | 20.8 | ひとつもない | 0.8 |

(3) 現在

①人づきあい

震災後の人づきあいであるが(表2-2-10)、「親兄弟等の親戚」(78.0)や「友人・知人」(75.5)が多く、「震災前の隣近所」(34.8)は富岡町よりも約10pt高く、檜葉町は相対的にやや広

い範囲での交際があることがわかる。

居住地域別でみると(表 2-2-11)、「仮設・雇用」で「転居後に知り合った人」(72.2)、「震災前の隣近所の人」(48.6)、「避難所で知り合った人」(37.5)と、富岡町に比べると震災前の関係が相対的に保たれているなか、「県内いわき市」では「親兄弟等の親戚」(84.2)や「友人・知人」(79.7)等と、富岡町と同様にその幅が狭いことがわかる。

表 2-2-10 現在の人づきあい

| 現在の人づきあい N=477 単位% | | | |
|--------------------|------|---------------|------|
| 親兄弟等の親戚 | 78.0 | 震災前の自治会の人 | 10.5 |
| 友人・知人 | 75.5 | 震災後の自治会の人達 | 9.0 |
| 震災前の隣近所の人 | 34.8 | 趣味や習い事の仲間 | 7.1 |
| 仕事関係での付き合い | 34.2 | NPO等の団体の人たち | 3.1 |
| 震災後に知り合った人 | 33.3 | 電子メール、インターネット | 1.9 |
| 避難所で知り合った人 | 19.5 | ひとつもない | 3.1 |

表 2-2-11 居住地域別の現在の人づきあい

| | 調査数 | 親兄弟、従兄弟などの親戚 | 友人・知人 | 震災前に住んでいた隣近所の人たち | 職場や取引先など仕事関係での付き合い | 仮設住宅等への転居後に知り合った人たち | 避難所で知り合った人たち |
|-------------|-----|--------------|--------|------------------|--------------------|---------------------|--------------|
| 合計 | 477 | 78.0 | 75.5 | 34.8 | 34.2 | 33.3 | 19.5 |
| 仮設住宅・雇用促進住宅 | 144 | 74.3 | 77.8 | ▲ 48.6 | ▽ 25.0 | ▲ 72.2 | ▲ 37.5 |
| 県内いわき市 | 177 | △ 84.2 | ∴ 79.7 | 37.3 | ▲ 45.2 | ▼ 15.3 | ▼ 10.7 |
| 県内その他 | 62 | 79.0 | 72.6 | 27.4 | 38.7 | ▼ 11.3 | ↓ 9.7 |
| 県外 | 92 | 72.8 | ↓ 67.4 | ▼ 14.1 | ↓ 25.0 | ▽ 22.8 | 15.2 |

| | 調査数 | 震災前に加入していた町内会・自治会の人たち | 仮設住宅等への転居後に加入した町内会の人達 | クラブ・サークル等の趣味や習い事の仲間 | NPO等の団体の人たち | 電子メールや掲示板等、インターネット | ひとつもない |
|-------------|-----|-----------------------|-----------------------|---------------------|-------------|--------------------|--------|
| 合計 | 477 | 10.5 | 9.0 | 7.1 | 3.1 | 1.9 | 3.1 |
| 仮設住宅・雇用促進住宅 | 144 | 11.8 | ▲ 17.4 | 6.3 | 4.2 | 1.4 | 1.4 |
| 県内いわき市 | 177 | 12.4 | ▼ 2.8 | 6.2 | 1.7 | 1.7 | 2.8 |
| 県内その他 | 62 | 11.3 | 6.5 | 6.5 | - | 1.6 | ∴ 6.5 |
| 県外 | 92 | ↓ 4.3 | 9.8 | ∴ 10.9 | ↑ 6.5 | 3.3 | 4.3 |

②話す内容

話す内容について確認すると(表 2-2-12)、全体では「一時帰宅」(69.2)、「町内等の震災状況」(65.0)、「自分や家族の健康」(58.1)、「補償問題」(55.1)がいずれも5割以上と富岡町と同傾向にある。

居住地域別において(表 2-2-13)、「仮設・雇用」は「買い物」(38.9)、「県内いわき市」で「自分や家族の人間関係」(58.2)や「自分や家族の仕事」(44.1)等と自分たちの身の回りに関する話題が多い。一方で「県外」で特徴的なのは「サークル活動」(26.1)であり、つながりを維持させるために何らかのテーマ型・コミュニティに属していることがうかがえる。

表 2-2-12 話す内容

| 話す内容 N=477 単位% | | | |
|----------------|------|--------------|------|
| 一時帰宅 | 69.2 | 今後の住宅制度 | 33.5 |
| 町内・家周辺の震災状況 | 65.0 | 買い物 | 32.9 |
| 自分や家族の健康 | 58.1 | 高齢者等の介護・福祉 | 21.0 |
| 自治体等による補償問題 | 55.1 | 子どもの教育 | 20.3 |
| 自分や家族の人間関係 | 45.5 | 趣味等のサークル活動 | 18.4 |
| 帰町・集団移転先 | 40.9 | 移手段・交通機関 | 15.5 |
| 自分や家族の仕事 | 37.3 | 自治会等の地域運営・活動 | 13.4 |

表 2-2-13 居住地域別の話す内容

| | 調査数 | 一時帰宅 について | 町内・家周 辺の震災 状況につ いて | 自分や家 族の健康 について | 政府や都 道府県等 による補 償問題に ついて | 自分や家 族の人間 関係につ いて | 帰町・集団 移転先に ついて | 自分や家 族の仕事 について |
|-------------|-----|--------------|-----------------------------|----------------------|-------------------------------------|----------------------------|----------------------|----------------------|
| 合計 | 477 | 69.2 | 65.0 | 58.1 | 55.1 | 45.5 | 40.9 | 37.3 |
| 仮設住宅・雇用促進住宅 | 144 | 72.2 | 66.7 | 54.2 | 54.9 | ∴ 39.6 | 44.4 | 36.8 |
| 県内いわき市 | 177 | 68.9 | 65.5 | 59.3 | 56.5 | ▲ 58.2 | 44.1 | ↑ 44.1 |
| 県内その他 | 62 | 67.7 | 71.0 | 61.3 | 50.0 | ▽ 30.6 | 33.9 | 33.9 |
| 県外 | 92 | 67.4 | 58.7 | 60.9 | 57.6 | 41.3 | 34.8 | ↓ 28.3 |

| | 調査数 | 今後の住 宅制度に ついて | 買い物に ついて | 高齢者・障 がい者の 介護・福祉 について | 子どもの 教育につ いて | 趣味等の サークル 活動につ いて | 移手段・ 交通機関 について | 自治会・町 内会等の 地域運営・ 活動につ いて |
|-------------|-----|---------------------|-------------|--------------------------------|--------------------|----------------------------|----------------------|--------------------------------------|
| 合計 | 477 | 33.5 | 32.9 | 21.0 | 20.3 | 18.4 | 15.5 | 13.4 |
| 仮設住宅・雇用促進住宅 | 144 | ∴ 27.8 | ∴ 38.9 | 23.6 | 17.4 | 16.0 | 13.2 | 13.9 |
| 県内いわき市 | 177 | ↑ 40.1 | 34.5 | 20.3 | ↑ 26.0 | 19.2 | 16.4 | 13.6 |
| 県内その他 | 62 | ↓ 22.6 | 29.0 | 19.4 | ∴ 12.9 | ∴ 11.3 | 14.5 | 11.3 |
| 県外 | 92 | 38.0 | ↓ 23.9 | 19.6 | 19.6 | ↑ 26.1 | 18.5 | 14.1 |

③情報源

震災後に使う情報媒体（メディア）をみていくと（表 2-2-14）、「テレビ・ラジオ」（93.3）や「新聞・雑誌」（85.1）というマスメディアの他に、「友人・知人」（60.0）といった口コミが多いのは富岡町と同じである。

居住地域別については（表 2-2-15）、「県内いわき市」で「家族の話」（55.9）や「ネット上のニュース」（35.0）、「県内その他」で「テレビ・ラジオ」（100.0）や「ネット上の掲示板」（12.9）、「県外」は「ネット上のニュース」（38.0）である。

表 2-2-14 現在の情報源

| 現在の情報源 N=477 単位% | | | |
|------------------|------|-----------|------|
| テレビ・ラジオ | 93.3 | ネット上のニュース | 30.2 |
| 新聞・雑誌 | 85.1 | ネット上の掲示板 | 8.4 |
| 友人・知人の話 | 60.0 | 企業ホームページ | 7.3 |
| 家族の話 | 45.5 | SNS | 2.5 |

表 2-2-15 居住地域別の現在の情報源

| | 調査数 | テレビ・ラジオ | 新聞・雑誌 | 友人・知人の話 | 家族の話 | ネット上のニュース | ネット上の掲示板 | 企業HP | SNS |
|-------------|-----|---------|-------|---------|--------|-----------|----------|-------|-----|
| 合計 | 477 | 93.3 | 85.1 | 60.0 | 45.5 | 30.2 | 8.4 | 7.3 | 2.5 |
| 仮設住宅・雇用促進住宅 | 144 | 93.8 | 86.8 | 59.7 | ▽ 35.4 | ▼ 19.4 | 5.6 | ∴ 4.2 | 2.8 |
| 県内いわき市 | 177 | 92.7 | 84.2 | 63.8 | ▲ 55.9 | ∴ 35.0 | 7.9 | 9.0 | 1.7 |
| 県内その他 | 62 | △ 100.0 | 88.7 | 59.7 | 50.0 | 30.6 | ∴ 12.9 | 11.3 | 1.6 |
| 県外 | 92 | 90.2 | 82.6 | ∴ 53.3 | ∴ 38.0 | ↑ 38.0 | 10.9 | 6.5 | 4.3 |

④自治会加入率と生活上の問題点

コミュニティ活動について確認する。現在住んでいる地区に自治会が「ある」(46.8)、「ない」(21.0)、「わからない」(26.0)、「不明」(6.3)と、富岡町に比べると自治会の設置率はやや低い(表 2-2-16)。居住地域別でみると、「仮設・雇用」における設置率は5割と、富岡町と比べて明らかに低い。一方で、「県内いわき市」や「県内その他」では「ない・知らない」の割合が高いのは富岡町と同じ傾向であった。

表 2-2-16 居住地域別の地域の自治会有無

| | 調査数 | ある | ない | 知らない | 不明 |
|-------------|-----|--------|--------|--------|-------|
| 合計 | 477 | 46.8 | 21.0 | 26.0 | 6.3 |
| 仮設住宅・雇用促進住宅 | 144 | ∴ 53.5 | ▲ 31.3 | ▼ 13.2 | ▽ 2.1 |
| 県内いわき市 | 177 | ▽ 38.4 | 22.0 | ∴ 31.1 | 8.5 |
| 県内その他 | 62 | 41.9 | 14.5 | △ 38.7 | 4.8 |
| 県外 | 92 | ↑ 56.5 | ▼ 6.5 | 28.3 | 8.7 |

そして、「ある」人のうちで「加入している」(64.6)、「加入していない」(31.8)、「不明」(3.6)と、自治会設置地区に居住している人については榎葉町の方が加入率は高い(表 2-2-17)。居住地域別では「仮設・雇用」は9割近くになっている一方、「いわき市」、「その他」や「県外」は未加入が5割前後と、全体平均に比べても明らかに高いのは富岡町と同傾向である。

表 2-2-17 居住地域別の地域の自治会加入の有無

| | 調査数 | 加入している | 加入していない | 不明 |
|-------------|-----|--------|---------|-----|
| 合計 | 223 | 64.6 | 31.8 | 3.6 |
| 仮設住宅・雇用促進住宅 | 77 | ▲ 88.3 | ▼ 6.5 | 5.2 |
| 県内いわき市 | 68 | ▼ 42.6 | ▲ 54.4 | 2.9 |
| 県内その他 | 26 | ▽ 46.2 | ∴ 46.2 | 7.7 |
| 県外 | 52 | 67.3 | 32.7 | - |

震災後に住む地域での生活上の問題について確認すると(表 2-2-18)、「家族や親戚が離れて居住」(18.9)、「友人・知人が離れて居住」(17.4)といった「散住」項目が上位にあるものの、それぞれ富岡町に比べて約20pt低く、他の項目も「名前を知らない人の増加」(12.8)

以外はすべて1割未満であるため、さほど問題としては認識されていないようだ。

居住地域別では(表2-2-19)、「仮設・雇用」で様々な問題が(全体の平均より)多くあらわれている。一方で「いわき市」、「その他」、「県外」のいずれも問題として特徴的に高い項目がほぼないとところをみると、「仮設・雇用」に特有な現象が生じていることがうかがえる。

表2-2-18 現在の生活上の問題点

| 現在の地域生活上の問題点(37項目上位24項目) N=477 単位% | | | |
|------------------------------------|------|---------------|-----|
| 家族や親戚が離れて居住 | 18.9 | 生活費等の経済的な問題 | 5.9 |
| 友人・知人が離れて居住 | 17.4 | 相談相手の不足・不在 | 5.7 |
| 名前を知らない人の増加 | 12.8 | ルールを守らない住民の存在 | 5.0 |
| ゴミ処理の問題 | 9.6 | 一部のものだけが参加 | 5.0 |
| 居住地区の放射能不安 | 9.4 | 行事への住民の参加の少なさ | 4.4 |
| 住民の高齢化 | 8.8 | 住民間のトラブル | 4.0 |
| 他地区との交流が少ない | 8.4 | 世代間のズレ | 4.0 |
| 買い物施設の不足 | 8.2 | 地域・地区のまとまりのなさ | 3.8 |
| 移動や交通の問題 | 8.2 | 異なった自然環境への対応 | 3.4 |
| 独居高齢者への対応 | 7.1 | とりまとめ役の不在 | 3.4 |
| 高齢者等の孤立化 | 6.9 | 治安・少年非行・風紀の悪化 | 2.7 |
| 医療・福祉施設の不足 | 6.3 | 一部の意見だけが尊重される | 2.7 |

表2-2-19 居住地域別の現在の生活上の問題点

| 調査数 | 家族や親戚が離れて居住 | 友人・知人が離れて居住 | 名前を知らない人の増加 | ゴミ処理の問題 | 居住地区における放射能への不安 | 住民の高齢化 | 他地区との交流が少ない | 買い物施設の不足 | 移動や交通の問題 | ひとり暮らしの高齢者への対応 | 高齢者や単身者などの孤立化 | 病院等医療・福祉施設の不足 |
|-------------|-------------|-------------|-------------|---------|-----------------|--------|-------------|----------|----------|----------------|---------------|---------------|
| 合計 | 477 | 18.9 | 17.4 | 12.8 | 9.6 | 9.4 | 8.8 | 8.4 | 8.2 | 7.1 | 6.9 | 6.3 |
| 仮設住宅・雇用促進住宅 | 144 | ▲29.2 | ▲26.4 | ▲23.6 | △16.0 | △15.3 | ▲18.1 | ▲14.6 | △11.1 | 10.4 | ▲13.2 | ↑10.4 |
| 県内いわき市 | 177 | ▽13.0 | △13.0 | 10.2 | 8.5 | 7.9 | ▽4.5 | 7.3 | ↓4.5 | 9.0 | ↓3.4 | △4.0 |
| 県内その他 | 62 | 14.5 | 11.3 | △6.5 | 6.5 | 11.3 | 8.1 | 4.8 | △16.1 | 4.8 | 9.7 | 4.8 |
| 県外 | 92 | 16.3 | 16.3 | ▽4.3 | ▽3.3 | ▽2.2 | ▽2.2 | ↑3.3 | 5.4 | 5.4 | △3.3 | 4.7 |

| 調査数 | 生活費等の経済的な問題 | 相談相手の不足・不在 | ルールを守らない住民の存在 | 一部のものだけが参加 | 行事への住民の参加の少なさ | 住民間のトラブル | 世代間のズレ | 地域・地区のまとまりのなさ | 異なった自然環境への対応 | とりまとめ役の不在 | 治安・少年非行・風紀の悪化 | 声の大きい人の意見が尊重される |
|-------------|-------------|------------|---------------|------------|---------------|----------|--------|---------------|--------------|-----------|---------------|-----------------|
| 合計 | 477 | 5.9 | 5.7 | 5.0 | 5.0 | 4.4 | 4.0 | 4.0 | 3.8 | 3.4 | 2.7 | 2.7 |
| 仮設住宅・雇用促進住宅 | 144 | 6.9 | △8.3 | ▲10.4 | ▲13.9 | ↑7.6 | ▲8.3 | △7.6 | ▲11.8 | 2.8 | ▲7.6 | 2.1 |
| 県内いわき市 | 177 | 5.6 | 4.0 | 4.5 | ↓2.3 | 4.5 | 2.8 | 2.8 | ▽0.6 | ↓1.1 | 1.7 | 3.4 |
| 県内その他 | 62 | 8.1 | 3.2 | - | - | - | 1.6 | 3.2 | - | ▲9.7 | 3.2 | - |
| 県外 | 92 | 3.3 | 6.5 | ↑1.1 | - | 2.2 | △1.1 | △1.1 | - | 4.3 | - | 4.3 |

| 調査数 | 問題解決のためのノウハウ不足 | 体育施設等の不足 | 役員の手不足 | 教育施設の不足 | 以前から居住の住民とのトラブル | 文化交流施設の不足・老朽化 | 行政とのトラブル | 活動が多すぎて負担である | 周辺住民によるいやがらせ | 幼児虐待等の子育て上の問題 | その他 | 困っていることはない |
|-------------|----------------|----------|--------|---------|-----------------|---------------|----------|--------------|--------------|---------------|-------|------------|
| 合計 | 477 | 2.5 | 2.1 | 2.1 | 1.9 | 1.7 | 1.0 | 1.0 | 0.8 | 0.6 | 0.2 | 9.9 |
| 仮設住宅・雇用促進住宅 | 144 | ▲6.9 | ↑4.2 | 3.5 | △3.5 | 2.8 | △2.8 | △2.8 | △2.1 | △2.1 | - | ▽3.5 |
| 県内いわき市 | 177 | ↓0.6 | 2.3 | 1.7 | 1.1 | 1.1 | 0.6 | 0.6 | 0.6 | - | - | 9.6 |
| 県内その他 | 62 | - | - | 1.6 | 1.6 | - | - | - | - | - | △1.6 | 12.9 |
| 県外 | 92 | 1.1 | - | 1.1 | 1.1 | 2.2 | - | - | - | - | △17.4 | 15.2 |

⑤コミュニティ活動

地域で実施している活動(認知ベース:行事、組織も同様)について確認すると(表2-2-20)、全体では「地域の清掃美化」(56.0)が5割を超えているが、「レクリエーション」(29.7)や「資源・廃品回収」(28.8)をはじめとして他の項目がいずれも3割に達していない。居住地域別の活動(表2-2-21)では「仮設・雇用」で「レクリエーション」(38.5)や「各種説

明会・部協会」(32.0)のみが平均より多く、「県内その他」に「学童等保育の支援」(17.1)や「青少年教育・育成」(14.3)が多いのは子育て世帯比率が高いものと考えられる。そして「県外」では「地域の清掃美化」(67.2)、「資源・廃品回収」(46.6)、「レクリエーション」(37.9)、「交通安全対策」(34.5)等、既存の自治会・町内会があるだけに活動が多いようである。

実施している行事についてみると、「自治会等の総会」(37.8)が4割に近いだけで、他は3割未満である。居住地域別では(表 2-2-22)「仮設・雇用」で「食事会・飲み会」(32.0)、「研修会・講習会」(17.2)が平均より多いだけで、富岡町に比べると自治会活動があまり活発ではないことがうかがえる。「県内その他」で多いのは「神社祭礼」(42.9)、「体育活動」(37.1)、「冠婚葬祭」(25.7)であり、「県外」では「自治会の総会」(56.9)、「盆踊り」(48.3)、「体育活動」「防災訓練」(25.9)、「新年会・忘年会」(13.8)と「県外」では行事の種類も多い。同じ避難生活者でコミュニティ活動の「ディバイド」が生じているのは富岡町と同傾向にあるが、檜葉町の場合は逆のパターンになっているといえる。

地区内で組織化されているものをみると、「消防団」(22.0)、「老人クラブ」(20.7)、「子供会育成会」(20.4)が上位3組織であるが、いずれも2割である。居住地域別では(表 2-2-23)、「仮設・雇用」で「ひとつもない」(28.7)があり、活動や行事のための組織が(調査時点の2012年夏の段階には)未整備であったといえる。「県内その他」では「消防団」や「老人クラブ」(31.4)、「氏子会・檀家組織」(20.0)、「県外」においては「活動」や「行事」と同様に、組織化されているものが多いのは富岡町と同じである。

表 2-2-20 現在のコミュニティ活動

| 地域が実施する活動 N=323 単位% | | | |
|---------------------|------|-------------|------|
| 地域の清掃美化 | 56.0 | 交通安全等対策 | 19.8 |
| 親睦・レクリエーション | 29.7 | 高齢者・障がい者福祉 | 16.7 |
| 資源・廃品回収 | 28.8 | 公園・広場等の管理 | 11.1 |
| 各種説明会・勉強会 | 21.1 | 行政への陳情 | 10.2 |
| 集会所等の施設管理 | 20.4 | 乳幼児や学童保育の支援 | 9.0 |
| 地域が実施する行事 N=323 単位% | | | |
| 町内会・自治会の総会 | 37.8 | 防災訓練 | 12.7 |
| 盆踊り・夏祭り | 29.4 | 冠婚葬祭 | 11.1 |
| 神社祭礼 | 24.1 | 研修会・講習会 | 10.5 |
| 食事会・飲み会 | 21.1 | 新年会・忘年会 | 8.0 |
| 運動会等の体育活動 | 16.7 | ラジオ体操 | 2.8 |
| 地域が形成する組織 N=323 単位% | | | |
| 消防団(分団) | 22.0 | 民生・児童委員会 | 17.6 |
| 老人クラブ | 20.7 | 婦人会 | 13.0 |
| 子供会育成会 | 20.4 | 氏子会・檀家組織 | 12.1 |
| 防犯協会 | 19.5 | 体育協会 | 11.8 |
| 社会福祉協議会 | 19.5 | 青年団 | 7.1 |

表 2-2-21 居住地域別の現在のコミュニティ活動

| | 調査数 | 地域の清掃美化 | 親睦・レクリエーション | 資源・廃品回収 | 各種説明会・勉強会 | 集会所等施設管理 | 交通安全対策等 |
|-------------|-----|---------|-------------|---------|-----------|----------|---------|
| 合計 | 323 | 56.0 | 29.7 | 28.8 | 21.1 | 20.4 | 19.8 |
| 仮設住宅・雇用促進住宅 | 122 | 58.2 | △ 38.5 | 26.2 | ▲ 32.0 | 22.1 | △ 14.8 |
| 県内いわき市 | 107 | ▽ 43.9 | ▼ 15.9 | ▽ 18.7 | ▼ 7.5 | ↓ 14.0 | 15.9 |
| 県内その他 | 35 | 65.7 | 25.7 | 37.1 | 20.0 | 20.0 | 25.7 |
| 県外 | 58 | ↑ 67.2 | △ 37.9 | ▲ 46.6 | 22.4 | ↑ 29.3 | ▲ 34.5 |

| | 調査数 | 高齢者・障がい者福祉 | 街灯等の設備等 | 行政への陳情 | 学童等保育の支援 | 青少年教育・育成 | ひとつもない |
|-------------|-----|------------|---------|--------|----------|----------|--------|
| 合計 | 323 | 16.7 | 11.1 | 10.2 | 9.0 | 7.7 | 7.4 |
| 仮設住宅・雇用促進住宅 | 122 | 20.5 | ▽ 4.9 | 13.1 | 6.6 | ↓ 3.3 | 8.2 |
| 県内いわき市 | 107 | △ 11.2 | 7.5 | ↓ 4.7 | 7.5 | 4.7 | 10.3 |
| 県内その他 | 35 | 11.4 | 17.1 | 8.6 | ↑ 17.1 | △ 14.3 | 2.9 |
| 県外 | 58 | 20.7 | ▲ 27.6 | △ 15.5 | 12.1 | ▲ 19.0 | 3.4 |

表 2-2-22 居住地域別の現在のコミュニティ行事

| | 調査数 | 町内会・自治会の総会 | 盆踊り・夏祭り | 神社祭礼 | 食事会・飲み会 | 運動会等の体育活動 | 防災訓練 |
|-------------|-----|------------|---------|--------|---------|-----------|--------|
| 合計 | 323 | 37.8 | 29.4 | 24.1 | 21.1 | 16.7 | 12.7 |
| 仮設住宅・雇用促進住宅 | 122 | 36.9 | ↓ 22.1 | ▽ 14.8 | ▲ 32.0 | ▽ 9.8 | 14.8 |
| 県内いわき市 | 107 | ▽ 26.2 | 25.2 | 25.2 | ▼ 7.5 | 13.1 | ▼ 3.7 |
| 県内その他 | 35 | 45.7 | 37.1 | ▲ 42.9 | 14.3 | ▲ 37.1 | 11.4 |
| 県外 | 58 | ▲ 56.9 | ▲ 48.3 | 31.0 | 27.6 | ↑ 25.9 | ▲ 25.9 |

| | 調査数 | 冠婚葬祭 | 研修会・講習会 | 新年会・忘年会 | ラジオ体操 | ひとつもない |
|-------------|-----|--------|---------|---------|-------|--------|
| 合計 | 323 | 11.1 | 10.5 | 8.0 | 2.8 | 13.0 |
| 仮設住宅・雇用促進住宅 | 122 | 12.3 | △ 17.2 | 8.2 | △ 0.8 | △ 17.2 |
| 県内いわき市 | 107 | ▽ 4.7 | ▽ 3.7 | △ 4.7 | 3.7 | 15.0 |
| 県内その他 | 35 | ▲ 25.7 | △ 2.9 | 8.6 | 2.9 | △ 5.7 |
| 県外 | 58 | 12.1 | 12.1 | △ 13.8 | 5.2 | ↓ 5.2 |

表 2-2-23 居住地域別の現在のコミュニティ組織

| | 調査数 | 消防団(分団) | 老人クラブ | 子供会育成会 | 防犯協会 | 社会福祉協議会 | 民生・児童委員会 |
|-------------|-----|---------|--------|--------|--------|---------|----------|
| 合計 | 323 | 22.0 | 20.7 | 20.4 | 19.5 | 19.5 | 17.6 |
| 仮設住宅・雇用促進住宅 | 122 | 21.3 | 21.3 | ▽ 12.3 | 17.2 | 20.5 | 18.9 |
| 県内いわき市 | 107 | 19.6 | △ 15.0 | 24.3 | 16.8 | ▽ 11.2 | ▽ 9.3 |
| 県内その他 | 35 | △ 31.4 | △ 31.4 | 25.7 | 22.9 | 20.0 | 22.9 |
| 県外 | 58 | 22.4 | 24.1 | △ 27.6 | △ 27.6 | △ 32.8 | △ 27.6 |

| | 調査数 | 婦人会 | 氏子会・檀家組織 | 体育協会 | 青年団 | 少年補導委員会 | ひとつもない |
|-------------|-----|------|----------|--------|--------|---------|--------|
| 合計 | 323 | 13.0 | 12.1 | 11.8 | 7.1 | 6.2 | 19.2 |
| 仮設住宅・雇用促進住宅 | 122 | 10.7 | 12.3 | 12.3 | 4.9 | △ 3.3 | ▲ 28.7 |
| 県内いわき市 | 107 | 11.2 | 10.3 | ▽ 5.6 | 6.5 | 5.6 | 15.9 |
| 県内その他 | 35 | 20.0 | △ 20.0 | 17.1 | 5.7 | 8.6 | 11.4 |
| 県外 | 58 | 17.2 | 10.3 | ↑ 19.0 | △ 13.8 | ↑ 12.1 | ↓ 10.3 |

(4) 今後の意向

① 帰町・集団移転希望先

楢葉町としては帰還を前提とした動きになっているのは富岡町のそれとは大きく異なる。そういった状況で、今後の帰町・集団移転を避難生活者はどう考えているのか。全体では「話し合っている」(47.6) は全体の半数に満たず、富岡町と比べて 10pt 近く低い。「話し合っていない」(30.2)、「わからない」(13.4)、「不明」(8.8) である。

避難生活者の希望する移転先であるが(表 2-2-24)、一番多いのは「楢葉町」(48.2)、次いで「いわき市」(37.7) である。居住地域別の特徴をみると様相が異なり(表 2-2-25)、具体的には「仮設・雇用」が「楢葉町」(58.3)、「県内いわき市」で「いわき市」(45.8) であるのに対して、「県内その他」は「楢葉町以外の双葉郡内」(9.7)、「県外」は「福島県外」「まだ決めていない」(20.7) という結果であり、一様に全体ベースでの施策を検討するのは難しいことがわかる。

表 2-2-24 帰町・集団移転希望先

| 希望する移転先 N=477 単位% | | | |
|-------------------|------|----------------|------|
| 楢葉町 | 48.2 | それ以外の福島県内 | 2.1 |
| いわき市 | 37.7 | いわき市以外の隣接の都道府県 | 1.9 |
| 福島県外 | 6.5 | まだ決めていない | 15.5 |
| 楢葉町以外の双葉郡内町村 | 5.2 | | |

表 2-2-25 居住地域別の帰町・集団移転希望先

| | 調査数 | 楢葉町 | いわき市 | 福島県外 | 楢葉町以外の双葉郡内町村 |
|-------------|-----|--------|--------|--------|--------------|
| 合計 | 477 | 48.2 | 37.7 | 6.5 | 5.2 |
| 仮設住宅・雇用促進住宅 | 144 | △ 58.3 | 35.4 | ↓ 2.8 | 3.5 |
| 県内いわき市 | 177 | 48.6 | △ 45.8 | ▽ 2.3 | 4.5 |
| 県内その他 | 62 | 43.5 | 35.5 | 6.5 | ∴ 9.7 |
| 県外 | 92 | ▽ 35.9 | ↓ 28.3 | ▲ 20.7 | 6.5 |

| | 調査数 | それ以外の福島県内 | いわき市以外の隣接の都道府県 | まだ決めていない |
|-------------|-----|-----------|----------------|----------|
| 合計 | 477 | 2.1 | 1.9 | 15.5 |
| 仮設住宅・雇用促進住宅 | 144 | 2.1 | - | 13.2 |
| 県内いわき市 | 177 | 1.7 | 1.7 | 14.1 |
| 県内その他 | 62 | 3.2 | 3.2 | 17.7 |
| 県外 | 92 | 2.2 | ↑ 4.3 | ∴ 20.7 |

②帰町・集団移転希望単位

今後の移転する単位についてみていくと（表2-2-26）、一番多いのは「家族」（52.2）であり、「震災前の自治会における班・隣組」（26.0）や「震災前の自治会」（20.5）といった地域単位は3割未満であるのは富岡町と同じ結果である。居住地域別（表2-2-27）では、「仮設・雇用」が「震災前の自治会」（26.4）や「震災後の自治会における班・隣組」（4.2）と、他のセグメントに比べて地域単位での移転を希望している人が相対的に多い。

表2-2-26 帰町・集団移転希望単位

| 希望する移転単位 N=477 単位% | | | |
|--------------------|------|-----------------|------|
| 家族単位 | 52.2 | 家族・親族単位 | 16.1 |
| 震災前自治会の班・隣組単位 | 26.0 | 震災後結成自治会の班・隣組単位 | 2.3 |
| 震災前の自治会単位 | 20.5 | 震災後に結成された自治会単位 | 1.7 |
| 個人単位 | 20.1 | | |

表2-2-27 居住地域別の帰町・集団移転希望単位

| | 調査数 | 家族単位 | 震災前の町内会・自治会における班・隣組単位 | 震災前の町内会・自治会単位 | 個人単位 |
|-------------|-----|------|-----------------------|---------------|--------|
| 合計 | 477 | 52.2 | 26.0 | 20.5 | 20.1 |
| 仮設住宅・雇用促進住宅 | 144 | 49.3 | 27.8 | ↑ 26.4 | ↓ 14.6 |
| 県内いわき市 | 177 | 55.9 | 25.4 | 19.2 | 20.3 |
| 県内その他 | 62 | 54.8 | 24.2 | ∴ 12.9 | ∴ 27.4 |
| 県外 | 92 | 47.8 | 25.0 | 18.5 | 22.8 |

| | 調査数 | 家族・親族単位 | 震災後に結成された町内会・自治会における班・隣組単位 | 震災後に結成された町内会・自治会単位 |
|-------------|-----|---------|----------------------------|--------------------|
| 合計 | 477 | 16.1 | 2.3 | 1.7 |
| 仮設住宅・雇用促進住宅 | 144 | 14.6 | ∴ 4.2 | 2.1 |
| 県内いわき市 | 177 | 16.9 | 2.3 | 1.1 |
| 県内その他 | 62 | 16.1 | - | 1.6 |
| 県外 | 92 | 16.3 | - | 2.2 |

2.3 地域コミュニティの過去・現在・未来

(1) 共分散構造分析のための設定

榊葉町の調査データについても 1.3 と同様な操作を行ったところ 4)、モデルの適合度指標は RMR=0.561、GFI=0.867、AGFI=0.808、CFI=0.893、RMSEA=0.038 と、このモデルは富岡町のそれに比べるとやや適合度が低い。

次にこのモデルの説明を行う。基本構造は富岡町と大きく変わらないが、モデルの適合度を確保するために、『情報資源』→『帰町・集団移転意識』へのパスを付加したこと、『情報資源』→『現在の地域資源』へのパスは削除している。

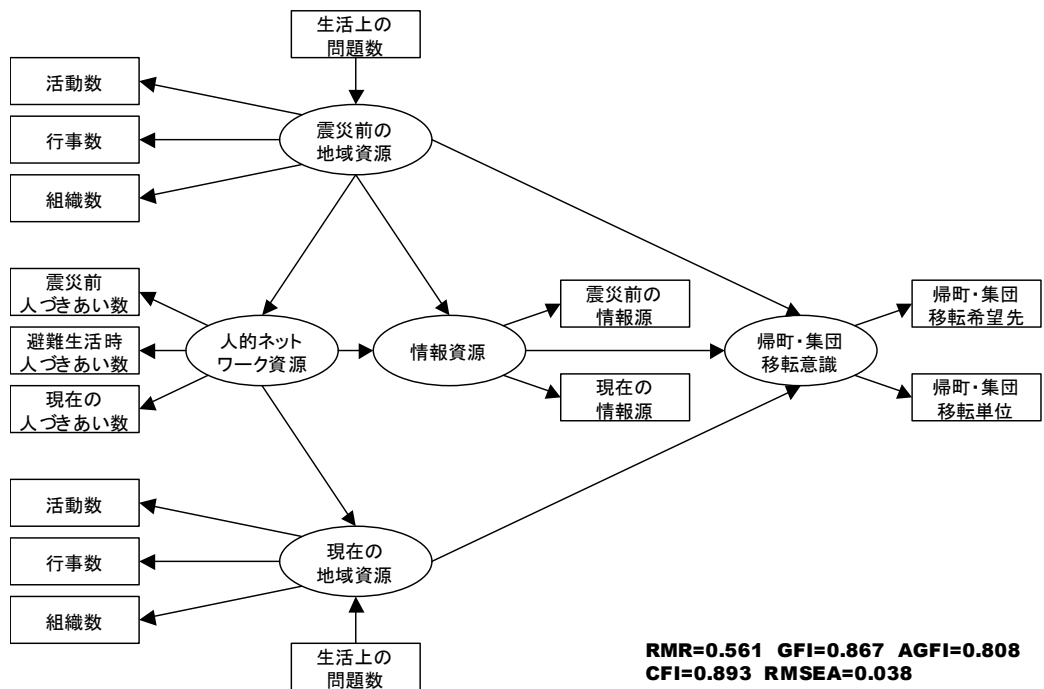


図 2-3-1 震災前後のコミュニティと帰町・集団移転意識との関係

(2) モデルの説明

ここでは前項で設定したモデルの説明を行う。富岡町のものと同様に、榊葉町民を 4 つのタイプ（仮設住宅入居者、いわき市内借り上げ住宅入居者、福島県内（いわき市除く）借り上げ住宅入居者、福島県外借り上げ入居者）で分析した（表 2-3-1）。主な理由として、（富岡町と同様に）応急仮設住宅と借り上げ住宅在住者には人づきあいやそれによるネットワークの違いがみられ、コミュニティへの関わり方も異なることが想定されるからである。以下では各々についてみていこう。

表 2-3-1 共分散構造分析結果

| 変数 | 仮設住宅 | | | いわき市内借り上げ | | | その他福島県内借り上げ | | | 福島県外借り上げ | | |
|--------------------------|-------|-------|------|-----------|-------|------|-------------|-------|------|----------|-------|------|
| | 推定値 | 検定統計量 | 確率 | 推定値 | 検定統計量 | 確率 | 推定値 | 検定統計量 | 確率 | 推定値 | 検定統計量 | 確率 |
| 震災前の地域資源 → 活動数 | 0.73 | | | 0.73 | | | 0.52 | | | 0.70 | | |
| 震災前の地域資源 → 行事数 | 0.82 | 7.88 | *** | 0.86 | 10.13 | *** | 0.92 | 3.92 | *** | 0.90 | 6.16 | *** |
| 震災前の地域資源 → 組織数 | 0.71 | 7.36 | *** | 0.82 | 9.95 | *** | 0.72 | 3.79 | *** | 0.61 | 5.28 | *** |
| 人的ネットワーク資源 → 震災前の人づきあい数 | 0.65 | | | 0.65 | | | 0.75 | | | 0.63 | | |
| 人的ネットワーク資源 → 避難生活時人づきあい数 | 0.63 | 5.80 | *** | 0.64 | 6.55 | *** | 0.79 | 5.59 | *** | 0.58 | 4.46 | *** |
| 人的ネットワーク資源 → 現在の人づきあい数 | 0.73 | 6.33 | *** | 0.70 | 6.92 | *** | 0.80 | 5.66 | *** | 0.70 | 5.06 | *** |
| 情報資源 → 震災前の情報源 | 0.64 | | | 0.71 | | | 0.76 | | | 0.70 | | |
| 情報資源 → 現在の情報源 | 0.61 | 4.28 | *** | 0.69 | 6.05 | *** | 0.62 | 4.01 | *** | 0.75 | 5.74 | *** |
| 現在の地域資源 → 活動数 | 0.51 | | | 0.76 | | | 0.63 | | | 0.84 | | |
| 現在の地域資源 → 行事数 | 0.92 | 5.03 | *** | 0.89 | 11.66 | *** | 0.78 | 4.60 | *** | 0.87 | 7.76 | *** |
| 現在の地域資源 → 組織数 | 0.65 | 5.35 | *** | 0.86 | 11.47 | *** | 0.85 | 4.62 | *** | 0.66 | 6.39 | *** |
| 生活上の問題数 → 震災前の地域資源 | 0.33 | 3.58 | *** | 0.36 | 4.44 | *** | 0.21 | 1.46 | 0.15 | 0.35 | 3.02 | 0.00 |
| 震災前の地域資源 → 情報資源 | -0.19 | -1.20 | 0.23 | -0.16 | -1.32 | 0.19 | 0.31 | 1.87 | 0.06 | -0.03 | -0.20 | 0.84 |
| 震災前の地域資源 → 人的ネットワーク資源 | 0.57 | 4.59 | *** | 0.55 | 5.08 | *** | 0.45 | 2.50 | 0.01 | 0.52 | 3.37 | *** |
| 生活上の問題数 → 現在の地域資源 | 0.28 | 2.84 | 0.01 | 0.40 | 5.28 | *** | 0.42 | 2.86 | 0.00 | 0.33 | 2.97 | 0.00 |
| 人的ネットワーク資源 → 震災前の地域資源 | 0.31 | 2.67 | 0.01 | 0.29 | 3.24 | 0.00 | 0.15 | 1.06 | 0.29 | 0.13 | 1.08 | 0.28 |
| 人的ネットワーク資源 → 情報資源 | 0.85 | 4.01 | *** | 0.86 | 5.02 | *** | 0.65 | 3.57 | *** | 0.98 | 4.07 | *** |
| 震災前の地域資源 → 帰町意識 | 0.23 | 1.38 | 0.17 | 0.25 | 1.93 | 0.05 | 0.50 | 1.37 | 0.17 | 0.13 | 0.77 | 0.44 |
| 現在の地域資源 → 帰町意識 | 0.08 | 0.64 | 0.52 | 0.18 | 1.59 | 0.11 | 0.17 | 1.00 | 0.32 | 0.25 | 1.44 | 0.15 |
| 情報資源 → 帰町意識 | 0.24 | 1.26 | 0.21 | 0.21 | 1.55 | 0.12 | 0.07 | 0.33 | 0.75 | -0.16 | -0.88 | 0.38 |
| 帰町意識 → 帰町希望先 | 0.44 | | | 0.53 | | | 0.37 | | | 0.62 | | |
| 帰町意識 → 帰町単位 | 0.68 | 1.90 | 0.06 | 0.67 | 2.90 | 0.00 | 0.90 | 1.64 | 0.10 | 0.78 | 1.64 | 0.10 |

①仮設住宅

『震災前の地域資源』の要素をみると、富岡町とはやや異なり「行事数」 > 「活動数」 ≒ 「組織数」となっていて、檜葉町の場合は神社祭礼、総会等といった行事が地域資源を形成する主要な要素であるといえる⁵⁾。

『人的ネットワーク資源』は「現在」 > 「震災前」 ≒ 「避難生活時」の順であり、現在の人づきあいが諸個人の人的資源に寄与している。

『情報資源』は「震災前」 ≒ 「現在」、『現在の地域資源』では「行事数」 > 「組織数」 > 「活動数」であり、これは富岡町と同様に仮設住宅では行事の開催数が地域資源形成に影響を与えていることがわかる。

『帰町・集団移転意識』は「移転単位」 > 「移転希望先」であり、移動する場所よりも震災前のまとまった単位での移転を希望しているのは富岡町と同じといえよう。

潜在変数間の因果関係をみていくと、『震災前の地域資源』 → 『人的ネットワーク資源』 → 『現在の地域資源』となっているが、震災前後の地域資源や情報資源が帰町・集団移転意識につながっておらず、檜葉町民にとっては諸個人同士によるネットワークは形成されつつあるものの、それが帰町・集団移転に結びついていないことをうかがわせる結果である。

②いわき市内借り上げ

『震災前の地域資源』は「行事数」 > 「組織数」 > 「活動数」という関係である。

『人的ネットワーク資源』は仮設住宅と同様に「現在」 > 「震災前」 ≒ 「避難生活時」、『情報資源』は「震災前」 ≒ 「現在」となった。

『現在の地域資源』は「行事数」>「組織数」>「活動数」であり、ここでもイベントのウェイトが高い。

『帰町・集団移転意識』はこれも①と同様に「移転単位」>「移転希望先」である。

潜在変数間の因果関係をみていくと、ここでも①と同様に各々の資源は帰町・集団移転意識にはつながっていない。

③福島県内借り上げ

『震災前の地域資源』であるが、②と同様に「行事数」>「組織数」>「活動数」である。

『人的ネットワーク資源』については「現在」≒「避難生活時」>「震災前」であるが、これらの要素の差は小さい。

『情報資源』は「震災前」>「現在」と、①や②と比べて震災前にウェイトがあるようだ。

『現在の地域資源』は「組織数」>「行事数」>「活動数」であり、このセグメントでは組織の数が地域資源の形成に大きな影響を与えていることを示唆している。

また、『帰町・集団意識』については「移転単位」>「移転希望先」であり、両者の差も大きい。

このように福島県内借り上げ入居者が①や②の結果と異なるのは『震災前の地域資源』が『人的ネットワーク資源』や『情報資源』の形成に(やや弱いながらも)寄与しているものの、『人的ネットワーク資源』が『現在の地域資源』に関係していないことである。

④県外借り上げ

『震災前の地域資源』は「行事数」>「活動数」>「組織数」と、①～③と比較して活動数へのウェイトが相対的に高い。

『人的ネットワーク資源』は「現在」>「震災前」>「避難生活時」であり、ここでも「いま・ここ」の関係の影響が強いことがうかがえる。

『情報資源』は「現在」>「震災前」であるが、両者のパス係数の差は小さい。

『現在の地域資源』では「行事数」>「活動数」>「組織数」であり、行事や活動の数が地域資源形成に影響を与えているといえよう。

『帰町・集団移転意識』は①～③と同様であり、潜在変数間の因果関係をみると、パス係数が意味を持つのは『震災前活動資源』→『人的ネットワーク資源』のみである。

(3) 大震災がもたらす地域コミュニティの変容

1章で論じた富岡町とは大きく異なっている点は、楢葉町が2012年8月10日から避難指示解除準備区域に再編されて日中は立ち入ることが可能になり、町としても帰町へ動いているところである。そうした前提の違いをふまえても、富岡町と比べどの資源も帰町意識に結びついていないのはどう説明すればよいのだろうか。

これも3章に関連することであるが、ある地区の仮設住宅自治会長のコメントが象徴的であろう。すなわち、「(楢葉町は)町として崩壊してしまった」ことであり、(帰還率が1割

程度に低迷している広野町⁶⁾をひきあいに出すまでもなく) 町民自体も帰町への想いが時間の経過により弱くなっているのかもしれない。というのも、榎葉町の役場機能は郡山に設置している富岡町と違い近接するいわき市にあり、そして避難住民の殆どである5千人以上が同市に居住していることから、利便性などから「出来るならばいわきで(過ごしていきたい)」と考えるようになるのも無理はないだろう。

地域の安全性に関する議論は百出しているが、富岡との比較では「住むことが出来る」榎葉への帰町意識が地域における諸資源と結びついていないのは、上述した理由なのかもしれない。

いずれにせよ、富岡町と同様、今後も継続的に動向を特に仮設住宅内で形成されているコミュニティの実態とその変容を調査する必要があるだろう。

注

- 1) 東京大学大学院・佐藤慎司の研究グループによる調査。
- 2) 『原子力災害対策特別措置法に基づく避難指示等の経緯』を参照。
- 3) 以下(〇〇%)は単に(〇〇)と表記する。
- 4) 詳細は第1章のp.13を参照されたい。
- 5) ここではパス係数の差が0.02以下の場合「≒」とみなしている。以下同様である。
- 6) 毎日新聞 2013年02月28日朝刊『東日本大震災:福島第1原発事故 広野町役場、再開1年 進まぬ帰還、でも待つ 町民憩いの公園作り』